

小樽市立菁園中学校 学力向上改善プラン

1 実施期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

2 生徒の実態

令和5年度全国学力・学習状況調査における本校の平均正答率は、国語70.0%、数学51.0%（全国平均とほぼ同値）、英語40.0%（全国平均-5.6ポイント）であった。国語では、記述式問題の無回答率が本校前年度の数値を下回り、他の教科を含めた教育活動全体で「書く活動」を丁寧に行った結果と考えられる。数学では、すべての領域・観点・問題形式で全国平均とほぼ同値になるまで上昇した。個別最適な授業を目的とした習熟度別学習や1人1台端末によるICT機器の活用によるものと考えられる。英語では、質問紙で「英語が好き」の回答が73%、「勉強したことが役に立つと思う」の回答が90.5%であった。今後においても英語を学ぶ楽しさを感じさせながら「確かな学力の定着」に向けて指導にあたりたい。

家庭学習や生活習慣については、生徒アンケートから目標数を上回った生徒の割合は全校で60.1%であった。家庭学習時間においても多い生徒とほとんどしない生徒の二極化の傾向があり、特に家庭学習習慣が未定着の生徒に対して手立てが必要である。そのためには、(1)家庭学習を行う目的や目標を明確化させる。(2)家庭学習を行うための環境づくり。(3)習慣化するまでの行動の在り方を示す。等の具体的手立てを行うことで改善を図りたい。また、家庭学習の定着を図るとともに、生活習慣スケジュール表等を活用した望ましい生活習慣を確立させることが課題である。

3 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・記述式問題の回答率88%以上にする。
2年	・記述式問題の回答率88%以上にする。
3年	・記述式問題の回答率88%以上にする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・比例の意味を理解し、基礎的な問題を80%以上解くことができる。
2年	・一次関数の意味を理解し、基礎的な問題を70%以上解くことができる。
3年	・ $y = ax^2$ の意味を理解し、基礎的な問題を60%以上解くことができる。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・毎日70分以上、家庭で学習する。
2年	・毎日80分以上、家庭で学習する。
3年	・毎日90分以上、家庭で学習する。

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 朝読書を年間計画的に実施する。
- ② チャレンジテスト、確認テストを活用する。
- ③ 数学科で少人数指導や習熟度別学習を英語科でTTを実施する。
- ④ 放課後学習を計画的、継続的に実施する。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 公開研究会を通じた、授業の質を高めるための研修を進める。
- ② 1単位時間の「課題」「振り返り」を意識した授業を工夫する。
- ③ 「自らの学びを深め、表現力をはぐくむ学びの工夫」を行う。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① スクール手帳「あすのおと」を活用し、計画的に学習する力を育成する。
- ② 定期テスト前を重点的に、計画的な放課後学習会を実施する。
- ③ 長期休業中の補充的学習サポート（夏休み・冬休み）を行う。
- ④ 保護者への説明会や様々なたより等で啓発する。
- ⑤ 「生活習慣スケジュール表」を実施する。

5 実施計画

年月日	計画内容
R6年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストの実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・スケジュール手帳「あすのおと」の配付と生徒への指導、保護者への説明 ・朝読書の実施（通年） ・放課後学習の実施（通年） <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○R6全国学力・学習状況調査の実施</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○全国学力・学習状況調査 自校採点</div>
5月	
6月	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○標準学力調査、総合質問紙調査結果分析</div>
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期保護者アンケート、生徒アンケートの実施 ・チャレンジテスト、確認テストの実施 ・「あすのおと」を利用した家庭学習の振り返りの実施 ・学校運営協議会の開催 ・夏休みの補充的学習サポートの実施 ・小中一貫教育合同研修会
8月	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○R6全国学力・学習状況調査結果分析</div>
9月	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○学力向上改善プランの評価・改善</div>
10月	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の実施
12月	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○保護者への調査結果の説明</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後期保護者アンケート、生徒アンケートの実施 ・小中合同学校運営協議会の開催 ・チャレンジテスト、確認テストの実施 ・「あすのおと」を利用した家庭学習の振り返りの実施
R6年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの補充的学習サポートの実施 ・研修アンケートの実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・関係者評価委員会の開催 ・チャレンジテスト、確認テストの実施 ・「あすのおと」を利用した家庭学習の振り返りの実施 <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○学力向上改善プランの評価、改善</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">○新学力向上改善プランの作成</div>

6 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 「情報の扱い方に関する事項」に関わる教科書の教材「思考のレッスン」の指導を丁寧に行う。
- ② 数学の単元テストを計画的に行う。
- ③ チャレンジテストや確認テスト、標準学力テスト、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、指導に活用する。

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ・3学期に研修アンケート（生徒・教員）を実施する。

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ・前後期に生徒アンケート、保護者アンケートを実施する。